

---

**会議の名称** 令和7年度第3回臨時庁議

**開催日時** 令和8年1月5日(月曜日)午前10時30分から午前10時45分

**開催場所** 庁議室

**出席者**

1 庁議構成員

区長、宮下副区長、森田副区長、教育長、技監（土木部長事務取扱）、区長室長、企画部長、区政改革担当部長、危機管理室長、総務部長、施設管理担当部長、区民部長、産業経済部長（都市農業担当部長兼務）、地域文化部長、福祉部長、高齢施策担当部長、健康部長（地域医療担当部長兼務）、練馬区保健所長、環境部長、都市整備部長、建築・開発担当部長、会計管理室長、教育振興部長、こども家庭部長、選挙管理委員会事務局長、監査事務局長、議会事務局長

2 幹事

財政課長、総務課長

3 関係職員

広聴広報課長、秘書課長、区政改革担当課長

**次第**

1 区長年頭のあいさつ

2 副区長、教育長あいさつ

3 その他

■企画部長

皆様、明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

今年度第3回の臨時庁議を始めさせていただきます。本日は、区長、両副区長、教育長から年頭のごあいさつをいただきたく存じます。それでは、はじめに前川区長よりよろしくお願いいたします。

■区長

明けましておめでとうございます。

私は若い頃から振り返ると、大きく二つのことを意識して生きてきたように思います。

一つは「歴史」です。仕事というのは歴史の中で行っているのだということを、常に忘れずに取り組んでいきたいと考えていました。若い頃は進歩主義の全盛時代で、社会主義思想の影響も強く、唯物史観的な発想が強かったのですが、そうではなく、自分たちは歴史の現場に日々立っていて、自分たちの行動が歴史を創るのだという感覚を持つことが、行政マンとして一番重要だと思っています。

「誰かが歴史の中で見ている。」そういう感覚を持っていただきたい。自分のた

めにやるのではない。歴史の中の利害得失を超えた「正義」が存在する。我々一人ひとりが世界史、日本史の流れを見ながら、行政として信念を持って取り組む姿勢をとっていただきたいと思います。

もう一点は、「褒貶は人にあり、行蔵は我に存す」という勝海舟の残した言葉です。自分の生き方への批判は色々あるが、自分の信念に従って生きることが大切だということです。この言葉を最近改めて噛み締め、自分もそうありたい、自分に恥じない生き方をしたいと思っています。皆さんと一緒に頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。以上です。

■企画部長

ありがとうございました。

続きまして、宮下副区長、お願いします。

■宮下副区長

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

年末年始は、箱根駅伝を楽しみにしています。駅伝そのものよりも、そこで流れるCMから今年の何かを得ようと思って見えています。

今年の箱根駅伝のCMを見ていて思ったのは、企業が製品や仕事の中身を紹介するというよりも、企業理念や目指す社会を発信する内容が多かったということです。世の中が、「目先のことよりも、先に向かってどんな社会を創ろうとしているのか。」ということを発信する方向に動いているのではないかと感じました。我々もそういう姿勢が必要だと思います。

今年は前川区政三期目、任期もあと4か月ほどとなりました。これまでの取組をしっかりと進め、さらなるステップアップができるよう、皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思っています。今年もよろしくお願いいたします。以上です。

■企画部長

ありがとうございました。

続きまして、森田副区長、お願いします。

■森田副区長

今年もよろしくお願いいたします。

年末年始を通じて、色々な場所で働いてくれている人たちのおかげで生活できているということを感じました。

これから予算編成もありますが、お金の使い方は本当に大事です。我々は区民のために最も良いお金の使い方をしなければなりません。区民の視点を意識しながら区政を前に進め、区長の政策が実現できるよう、今年も頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

■企画部長

ありがとうございました。

続きまして、教育長、お願いします。

■教育長

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

今年はスポーツイベントが目白押しです。私は昨年末、初めてバドミントンの全日本大会を観戦しました。オリンピックで見るような有名選手が出場していて、打つ音やシャトルのスピードが全然違い、実物はすごいと感じました。ただ、決勝までビデオ判定がなく、人間の判定が追いついていない場面がありました。シャトルが速すぎて、イン・アウトを間違えることもあり、人間の能力を超えていると感じました。来シーズンからは、メジャーリーグでもストライク・ボール判定にシステムを導入する話があります。プロの世界では白黒をつけることが必要なので良いことだと思います。高校サッカーの全国大会も見に行きましたが、実態とは違った判定がされていることがありました。社会に出たら、ビデオ判定もなく、理屈通りにいかないこともありますので、良い面も悪い面もありますが、アマチュアスポーツでは人間の目で判定することも必要かもしれないと思っていました。しかし、AIの進展で、我々の仕事も一定の判定を受けるような世の中になってくるとそういった考え方が今後も通用するのかなと感じました。

先行きが不透明な世の中ですが、子どもたちが困難を乗り越え、将来を生き抜く力をつけるよう、色々なことに目配りしながら取り組んでいきたいと思います。今年もどうぞよろしくお願いいたします。以上です。

■企画部長

ありがとうございました。以上になりますが、この際、皆様から何かご発言等ございますか。よろしいでしょうか。では、特にないようですので、これを持ちまして、令和7年度第3回の臨時庁議を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

(事務局：企画部企画課)